
プールの嘆き

宮森琥珀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プルートの嘆き

【Nコード】

N8771A

【作者名】

宮森琥珀

【あらすじ】

冥王星が惑星ではなくなる、というニュースに衝撃を覚え勢いだけで書き上げた超短編です。水金地火木土天海冥、の理が消えてしまうのは余りにも寂しいですね。

冥王星が惑星ではなくなるらしい。

このニュースを耳にして、私はひどく心配になった。

これから先、彼の星は生きていけるのだろうか。

宇宙最果ての惑星だった、あの星は。

例えば、お前は人間としては小さすぎるから人間だと認められない、と私が言われたらどうするだろう。

生き物としては十分に生きていけるけれども、とある瞬間から人間であることを捨てねばならないとするのなら。

また、もしもこうだったら、どうするだろう。

私の家が余りにも日本の果てにあるから、日本人として認められないなんて言われたら。

それまで日本人として生きてきた日々を否定されて、私はどこへ行けばいいのだろう。

そして、今まさに。そんな状況に追いやられている冥王星は、どうするのだろう。

惑星としては小さいけれども、星としては多少大きい厄介者のレツテルを貼られて。

あんなに端っこにいるのに、太陽の家に入することを許されないまま、どこか辿り着ける場所はあるのだろうか。

大小様々な星に囲まれて、酷いことを言われたりしないだろうか。心ない虐めを受けたりしないのだろうか。

地球で呑気に朝食をとる私が、呆然とそんなことを考えている間

に、ニュースは移り変わり、張り付いた笑顔のキャスターが天気を伝えていた。

窓の外は、テレビの中で彼女が言うように、どんよりとした灰色に満ちている。

口に含んだパンが上手く飲み込めず、クツと呻き、私は再びカーテンの隙間から覗く世界を見やった。

雨を孕んで巡る大気の遙か向こうにある冥王星に思いを馳せる。太陽の家族に戻れるといいのにな。

そつと祈り、私は立ち上がった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8771a/>

プルートの嘆き

2010年12月13日15時47分発行